

牛群検定通信 No111

～ 「新」周産期病の予兆は牛群検定から素早くキャッチ！ ～

～～ 近日、配布開始！ ～～

「周産期病の予兆は牛群検定から素早くキャッチ！」は今から5年前に配布したパンフレットで、問い合わせが殺到し大ヒットしました。この度、新しい情報を追加したものが完成しました。近日中にお手許に届くと思いますが、その概要をお知らせします。

(1) 概 要

ケトーシス、ルーメンアシドーシス、第四胃変位、低カルシウム血症、乳房炎、繁殖障害といった周産期病に罹患するおそれのある牛について、検定成績表がどのような傾向となるか？解説したものです。

(2) 今回の変更点

ほぼ5年前に作成した内容を踏襲しています。新しい情報として、分娩後60日までの乳成分がその後の繁殖成績等へ与える影響を統計分析しています。

(3) 乳脂率

分娩後60日までに乳脂率が5%以上となると、その牛は脂肪肝となりやすく、繁殖成績がふるわず、短命となると言われることがあります。今回のリーフレットでは、こういったことを検証すべく、過去3年の牛群検定成績104万頭という膨大なデータを用いて、解析しました。このような分娩後60日以内に乳脂率が5%を越えた牛は、越えなかった牛と比較して、5%以上除籍される比率が高いという結果でした。また、受胎しない牛も5%以上多くなります。分娩間隔では6日間延長するという結果となりました。

(4) 各周産期病

- ・ルーメンアシドーシス、蹄葉炎

牛群検定成績のP／F比が1．00以上となることが知られています

- ・ケトーシス、脂肪肝

分娩後60日以内に乳脂率5%以上、P／F比が0．7以下となることが知られています。また、最近では、一部地域でケトン体検査が出来るようになっていきます。その場合はBHBで0．13mM／L以上でケトーシスが疑われます。

- ・低カルシウム血症（乳熱）

発情回帰が遅れ、検定成績表では初回授精遅れる傾向がみられます。また、高泌乳を記録した牛の場合、その次の乳期で低カルシウム血症となることが多いことも知られています。

- ・繁殖障害

難産、双子（三つ子）分娩、死産、早産を起こした乳期は、繁殖障害になりやすいと言われています。また、分娩後60日までに、乳蛋白質率が2．8%を下廻るような場合、エネルギー不足により鈍性発情となりやすいと言われています。

します。